

## B-2. インビトロアッセイ(ラウンドテーブル・特別発言)

## 315 健康者における血清フェリチン値の検討

高原淑子, 山岸 豊, 石橋章彦, 佐々木由三, 山下昌次, 正木英一, 与那原良夫(国立東二, 核医学センター) 安藤 裕, 伊東久夫(慶大, 放)

血清フェリチンの測定は広く行われているが、正常域が未だに確定されていない状態にあるため、成人健康者について性別による測定値の検討を行った。対象は国立東京核医学センターで測定した男50例、女44例で、H.K.D 3社のRIAキットを用いた。これと併行して、健康者と見られた中に存在した低フェリチン血症例、低血鉄症例についても検討を加えた。正常男子38例の血清フェリチン値はH社  $18.286 \pm 5.756$  ng/ml, CV 31.48%, K社  $17.60 \pm 4.445$  ng/ml, CV 37.79%, D社  $12.65 \pm 4.274$  ng/ml, CV 37.94%で、一方女子15例ではH社  $9.215 \pm 2.633$  ng/ml, CV 28.57%, K社  $5.650 \pm 1.701$  ng/ml, CV 30.10%, D社  $4.219 \pm 1.288$  ng/ml, CV 30.52%を示した。

## 316 血清フェリチン測定用各種キットによる正常値の設定とその比較検討

中川 清, 角張茂子, 川田行典(日本ラジオアッセイ研究所一研) 白倉卓夫, 菅井芳郎(群大草津分院, 内)

近年の放射性免疫学的測定法の進歩に伴い、各種疾患患者における微量の血清フェリチンの測定が可能となり、診断治療の上で本法が極めて有用であることが指摘されている。しかしながら、現在使用されている各種測定用キットによって、その測定成績は必ずしも一致していないのが現状であり、また正常値の変動域もかなり広いものとなっている。

今回我々は、第一ラジオアイソトープ研究所、ヘキスト・ジャパン、トラベノールの三社のキットを使用して、正常値の設定を試み、その比較検討を行うと共に鉄欠乏性貧血症および鉄過剰症についても、三キットによる成績を比較検討をする。

## 317 3種キット間における血清フェリチン値の検討 — 正常者について —

安藤 裕, 伊東久夫(慶大, 放) 高原淑子, 石橋章彦, 山岸 豊, 佐々木由三, 正木英一, 与那原良夫(国立東二, 核医学センター)

対象としたのは、男性49名女性40名の計89名で、同時に血清鉄、肝機能等を調べ明らかな異常者は除いた。用いたキットは、リアグノスト、リアバック、スパックの3種でスパックでは5倍希釈と原血清を測定し他は原血清を測定した。

結果は、リアグノストが高値を示す傾向があり、リアバック、スパックの順で低くなる。各社のキット間の相関係数は、0.5~0.9を示し5%の危険率で相関が認められる。男性と女性では相関係数がかなり違いフェリチンの低値を示す女性群では相関が高くなり、高値を示す男性群では相関係数が低くなり、あるキットでは高値を示しても他のキットでは低値を示す事もあった。

各キットによる平均値は、男性では、80 ng/mlから189 ng/mlであり、女性では20 ng/mlから65 ng/mlの範囲であった。

## 318 尿中フェリチン値測定の意義、特に悪性腫瘍診断への応用の可能性について。

田中鉄五郎, 内田立身, 海野政治, 木村秀夫, 油井徳雄, 松田 信, 刈米重夫(福島医大, 1内) 斉藤 勝(福島医大, RI研)

我々は血清フェリチン値と同時に尿中フェリチン値を測定し、特に悪性腫瘍での診断的有用性について検討した。対象は悪性造血器疾患25例を含む血液疾患46例、肺癌・胃癌を含む固形癌27例、その他22例、計95例とし、フェリチン値の測定は第一ラジオアイソトープ研究所のSPAC Ferritin kitにより行なった。尿中フェリチン値は正常人、鉄欠乏では全例10ng/ml以下を示し、再不貧では6例中5例が50ng/ml以上、AIHA、PNHでも100ng/ml以上の高値を示した。悪性造血器疾患の約半数例、固形癌の25例中20例および肝炎、胆石症の9例は全例20ng/ml以下の値を示した。尿中フェリチン値と血清フェリチン値との比は、鉄過剰症、溶血貧、肝炎および胆石症では0.05以上の値を示す例が多く、一方悪性造血器疾患の65%、固形癌の37%は0.05以下の値を示した。尿中フェリチン値は、鉄過剰症や溶血貧では高値を示す例が多く、一方悪性腫瘍では比較的増加の程度が少なく、血清フェリチン値との比をみることで、両者の鑑別に有用であることが示唆された。